

うきたむ

第49号

2017.7.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



共感する場としての考古資料館

館長代理 小林 貴宏

私が考古資料館に初めて関わったのは一九九五年の秋のことです。それ以来、考古資料館の職員、友の会である「うきたむ考古の会」役員、今は町の担当として関わっています。振り返ると、考古資料館を舞台に、様々な方々と出会い、豊かな時間を共に過ごしてきました。触れ合いの中では「歴史を学ぶこと」と共に、「歴史に触れ、ともに感動すること、愉しむこと」を学ばせて頂きました。

心に残る仲間たちの中には著名な歴史学者も居りましたが、圧倒的に農業や会社の仕事、家事・家業に勤しみ、その合間に考古資料館にお見えになられる方が多かったです。皆さんからは、歴史に触れた感動をより多くの人びとと共有しよう、という姿勢を学びました。私にとって考古資料館は、新たな知識に出会う場であり、新たな発見の場でもありましたが、何よりもこうした感動共有の場でした。「赤ちゃん手形」をとる赤ちゃんのかわいい様子、それを喜び合うご家族、体験学習のモノづくりの完成を喜び合う子ども、資料を真剣なまなざしで見つめる学生の様子、仲間たちとハイキングや遺跡めぐりを楽しむ大人たちの様子、考古資料に入り込んでくっている人の様子、考古資料館では様々な感動の場に出会います。考古資料館には、これからも様々な人びとが出会い、行き交い、通り過ぎてゆくことでしょうか。強い感動、ささやかな感動、様々な想いが考古資料館の歴史には積み上げられていくことでしょうか。

様々な不安が押し寄せる現代、私たちの故郷の過去の歩みをたどり、先人の喜びや悲しみ、工夫や模索、苦労や希望というものに共感をもって対面することは、大きな意味があると思います。私たちには、これからも幾多の災害や人災に見舞われることでしょうか。そのときに、私たちが過去の人びとの教訓を受け止めることができるようにするためにも、過去への共感の力を蓄えておく必要があると思います。それは未来への道を開くものと思います。

これからも、過去・現代・未来に共感する資料館を皆さんと共に作ってゆけたら、と思っています。

特別テーマ展

「くらべてみよう今と昔く台所編く」

平成29年6月10日(土)～9月10日(日)



特別テーマ展「くらべ

てみよう今と昔く台所編く」を開催いたします。埋蔵文化財と民俗資料が物語る、台所の今と昔をくらべて下さい。

旧石器時代

(小国町湯の花遺跡)
旧石器時代の台所用具は、動物の肉を切り分けるのに使われた、ナイフ形石器を展示します。

縄文時代

(高島町 押出遺跡)
縄文時代には煮炊きのできる、縄文土器が登場します。縄文クッキーを作るための道具や木の実は展示します。

弥生時代

(酒田市 生石2遺跡)
弥生時代になると、米づくりが始まります。生

石2遺跡から出土した炭

化米、調理や貯蔵、食器として使われた弥生土器を展示します。

古墳時代

(高島町 寝鹿遺跡)
古墳時代になると、住居内にカマドが据えつけられるようになります。火にかける糞や、米を蒸すための甑、食器となる

坏などを展示します。

奈良・平安時代

(高島町 大在家遺跡)
奈良・平安時代には、須恵器が使われるようになり

ます。須恵器の大甕や坏、ヒョウタンの柄杓などを展示します。

中世

(酒田市 亀ヶ崎城跡)
亀ヶ崎城跡からは当時の人々が食べた、魚、鳥、

獣などの骨、さとうの入れ物や輪島そうめんの荷札も見つかりました。

江戸時代

(鶴岡市 鶴ヶ岡城跡)
今ある調理法のほとんどが確立する時代です。ご飯を炊く羽釜なども普及し、道具も多彩になります。

明治・大正時代

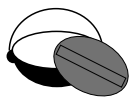
(上山市 中山城跡)
西洋の料理が入ってくる時代です。一般の家では江戸時代とあまり変わらない食事だったようです。

昭和

激動の時代昭和は、食事も台所用具も激変する時代です。

平成

火を使うことの少なくなった台所。進化を続ける現代の台所と、それぞれの時代の台所を比べてみて下さい。



うきたむ考古資料館イベント紹介

当館では、様々なイベントを行っております。ブルジョウモン」が開催されます。

去年久々に開催された「編布をつくるう」は大人の方に人気でした。編布は、縄文時代からある編み物の方法で、麻ひもでコースターやポシェットを作ります。そして、今年初の「大人の自由研究」は、青苧から繊維をとったり、繊維を織ったりします。

大人から子どもまで楽しめるイベントを開催しておりますので、ぜひ資料館にお立ち寄りください。

その他にも、ブレスレットやガラス玉づくり、夏休みの一日体験イベント「スクールオ



▲スクールオブジョウモン 弓矢体験

第25回企画展

「木と生きる」～弥生・古墳の木製品～」

平成29年9月16日(土)～12月3日(日)

木は太古より、人々の生活と密接にかかわってきました。縄文時代の植木利用をテーマとした昨年度の企画展「森と暮せば」に続き、今年度の第25回企画展は農耕が始まった弥生時代、その社会が成熟していく古墳時代の木の利用を考えます。「木と生きる～弥生・古墳時代の木製品～」と題



▲ 展示予定 鋤・鍬 (仙台市高田B遺跡)

して人々の暮らしの中で、木がどのように利用されてきたのかを木製品から探ります。弥生時代の木製品は山形県内での出土がなく、仙台市教育委員会からお借りしたものを展示いたします。展示構成は昨年度の「森と暮せば」に倣ったものとなりました。

第一章は「住と木工」とし、弥生時代では中期の建築部材や高床式倉庫に使われたとみられる梯子、古墳時代の建築部材と高床式倉庫に使われたとみられるねずみ返し、梯子等の木製品を展示します。また、木工や植物加工に使われた弥生時代の斧や鑿に使われた石斧と柄、古墳時代の鉄斧と

砥石、斧の柄、横槌やこも槌と木製品としての作業台を展示します。

第二章は「食料獲得と加工」としました。弥生時代の弓と石鏃、古墳時代の弓は狩猟に使われたと考えられます。稲作が始まって、相変わらず狩猟への依存度は少なくはなかったようです。弥生時代に入ると縄文時代にはなかった木製品が出現します。農耕にかかわる道具です。これらの道具は基本的には古墳時代にも受け継がれます。各種の鍬、鋤、それらの柄、

泥除や堀棒、田下駄などの木製品があります。そして古墳時代の収穫具としての鉄鎌の柄、食料加工用の臼や杵も弥生時代から出現します。

第三章は「容器」として盤や槽、椀を展示します。

第四章は「衣・調・装い・折り」とし「衣」で

は弥生・古墳時代の製糸や織機の部品と復元された古墳時代の「織機」を展示します。また、「調」では古墳時代の筑形木製品や琴柱を、「装い」では竖櫛を展示します。「折り」では鏝形、舟形、矢形、刀形など宗教行事で使われたと考えられる資料を展示します。

今回の企画展は県内ではほとんど展示されたことのない弥生時代の木製品を多数展示します。また、古墳時代を含めて農耕が始まってからの多様な木の道具や部材を通じて、往時の生活に思いを馳せてみてください。

催し物の案内

今後の催し物です。興味のあるものがございましたら、ぜひ足をお運びください。(詳細はお問い合わせください。)

- ◇考古学入門講座Ⅲ 7月9・16・23日(日)
- ◇大人の自由研究 7月22日(土)・12月16日(土)
- ◇勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 8月5日(土)・11月3日(祝)
- ◇スクールオブジョウモン 8月10日(木)
- ◇第24回企画展 9月16日(土)～12月3日(日)
- ◇企画展記念講演会 11月19日(日)
- ◇第17期考古学セミナー 9月24日・10月8・22日(日)
- ◇秋の遺跡めぐり 10月1日(日)
- ◇ガラス玉をつくろう！ 12月2日(土)
- ◇考古資料検討会 2月4日(日)

置賜史跡めぐり (43)

高島町と高島石

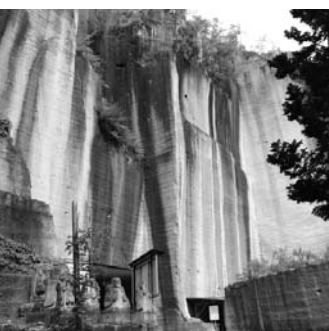
瓜割石庭公園

高島町二井宿●近現代



▲旧高島駅舎

門、塀など日常の生活の中
 材として家の土台や敷石、
 数百年にわたって採掘され
 てきた高島石は、身近な素
 材として家の土台や敷石、
 門、塀など日常の生活の中



▲瓜割石庭公園

り出していました。切り出
 される石材には、一尺二寸
 ×八寸×六尺という定ま
 った大きさがあり、俗に
 「二二八」と呼ばれていま
 す。この「二二八」一本を
 切り出すには、ホッキリを
 約四千回も振り下ろさなけ
 ればならず、一日に一本採
 れれば一人前と言われたそ

高島町では、町内
 いたるところで「高
 島石」と呼ばれる石
 材を使った建築や石
 造物を見ることが
 できます。「高島石」
 は火山灰が海底で凝固して
 できた凝灰岩で、やわらか
 く加工しやすい性質をもち
 ます。中世から近年まで、
 瓜割をはじめとする採石
 場では、「ホッキリ」と呼
 ばれるツルハシや玄翁（金
 づち）を使って、機械では
 なく手作業によって石を切
 り出していました。切り出
 される石材には、一尺二寸
 ×八寸×六尺という定ま
 った大きさがあり、俗に
 「二二八」と呼ばれていま
 す。この「二二八」一本を
 切り出すには、ホッキリを
 約四千回も振り下ろさなけ
 ればならず、一日に一本採
 れれば一人前と言われたそ
 うです。
 こうして切り出された高
 島石は、高島町内を中心
 様々な用途で使用されてい
 ます。大正十一年に開通
 し、米や果物、木材などの
 産物の輸送に盛んに使われ
 た高島鉄道（後の山形交通
 高島線）で使用された「旧
 高島駅舎」の建築にも瓜割
 丁場から切り出された高島
 石が使われました。このほ
 かにも県の指定文化財でもあ
 る、「高房神社の石鳥居」や、
 慈眼院の地蔵石仏、家々の
 周りを囲む石塀などに高島
 石が使われています。

我が館の展示品 (37)

動物骨・貝殻

縄文時代

●高島町 日向洞窟

縄文時代草創期の遺跡であ
 る日向洞窟からは、当時の食
 生活を垣間見ることのできる
 骨や貝殻などが発見されてい
 ます。

氷河期の終わりと共に大型
 の動物は姿を消し、この時代
 にはニホンジカ、クマ、タヌ
 キ、ウサギなどが主な狩りの
 対象となりました。

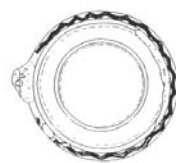
栗やクルミといった堅果類
 や山菜、魚や貝、そして動物
 と、幅広く食していた縄文の
 人々は、も
 しかしたら
 グルメだっ
 たのかもし
 れません。



刊行!

テーマ展示ガイド

「古墳時代から 中世の考古資料」



当館のテーマ展示の内
 容をコンパクトにまとめ
 たガイドブックを刊行い
 たしました。テーマ展で
 展示している古墳時代か
 ら中世までの展示内容を、
 展示資料の写真やパ
 ネルの図版をふんだんに
 使用し、オールカラーで
 より詳しく、わかりやす
 く解説しています。
 詳細は、当館までお問
 い合わせください。

目次

- 古墳時代のくらし
- 各地にひろがる須恵器生産
- 中世の人びとと信仰

目録